

自己評価の基準
A・・・計画以上
B・・・おおむね計画通り
C・・・計画以下
評価審議会の評価
AAA・・・きわめて高い成果をあげている
AA・・・高い成果をあげている
A・・・成果をあげている
B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C・・・取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価, コメント, 評価

総合評価
北野高校は大阪のナンバースクールとして、アカデミックで自由闊達な校風のもと、「真の文武両道」をめざし、勉強だけでなく、学校行事や部活動等にも積極的に取り組んでいる。また、「授業第一主義」を掲げ、学校として組織的な授業改善に取り組む、生徒の学力を向上させてきたことに加えて、「北野生の凄さを見る」をキーワードに、コンクール・コンテストや課題研究発表に参加することを後押しし、生徒の主体性や高い志を育ててきたことが、進学実績に繋がっていると考え、今後引き続き、授業等で身に付けた高度な知識や豊かな語学力・コミュニケーション能力、また、探究活動で育んだ社会の課題に対する問題解決力などを活かし、将来、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できるグローバルリーダーの育成に努めてもらいたい。

自己評価の基準
A・・・計画以上
B・・・おおむね計画通り
C・・・計画以下
評価審議会
AAA・・・極めて高い成果をあげている
AA・・・高い成果をあげている
A・・・成果をあげている
B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C・・・取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価, 評価. Rows include: I. 確かな学力の向上を図る, II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはくむ, III. 高い志をはくむ、進路実現をめざす, IV. 教員の指導力向上をめざす, V. 総合的な学力の測定, VI. 課題研究活動, VII. 英語運用能力, VIII. 進学実績.

総合評価
豊中高校は平成23年度に府のGLHSの指定を受け、グローバル人材の育成に向けた取組を進め、進学実績などにおいて大きな成果をあげている。また、平成22年度に国から指定を受けたSSHに加え、平成27年度にはSGHの指定を受け、課題研究の充実などに取り組んできた。昨年度末に発表されたSGHの中間評価では3年間の取組について高い評価を受けたところである。校長のマネジメントのもと、チーム豊高として授業改善に取り組むほか、課題研究、学校行事・部活動や地域でのボランティア活動などの充実にも取り組んでおり、さらなる成果の拡大が期待されることである。引き続き、学校全体としてグローバルに活躍できる人材の育成に努めてもらいたい。
AA

平成29年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート 府立茨木高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-9

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る <small>小項目（はぐくみたいか） ・言語活用 ・ICT活用 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他</small>	①言語活用力	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施	実施回数	7回/講座	6回/講座	6回/講座	目標を達成	B	【アンケートによる生徒の評価】 ディベートをすることで英語の表現力が高まった	82%	75%	85%	目標達成	A	継続	A	
		②言語活用力・ICT活用力	継続	教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション能力の向上	A:「保健」の授業でのプレゼンテーション B:「1年行事委員会活動」での生徒間のプレゼンテーション	A:1回以上/生徒 B:20回	A:1回/生徒 B:10回	A:1回/生徒 B:11回	A:1年保健では環境汚染についてのプレゼンテーション、2年保健では生涯を通じる健康の分野でディベートを実施。 B:委員会活動は現時点で11回実施。	B	【アンケートによる生徒の評価】 A:授業を通じて自らの成長を実感できた B:1年行事委員会に参加して充実した活動ができた	A:90 B:90	90%	A:90 B:94	A:目標達成 B:目標達成	B	継続		
		③基礎学力の向上	新規	進路目標達成のための基礎的教養や知識を高める図書の実施	図書館の開館日数の確保	211日	210日	204日	目標に近い値を達成	B	生徒に対する図書館蔵書の貸し出し冊数及び、生徒一人あたりの図書購入冊数	貸出冊数2977冊 購入一人年2.1冊	貸出冊数3000冊 購入一人年2冊	貸出冊数3331冊 購入一人年2.2冊	目標達成	B	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ <small>小項目（はぐくみたいか） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他</small>	④共感性・違いを認め共に生きる力	継続	生徒の人権委員会を中心とした多文化共生・多様性受容の取り組み	実施回数	10回/3年 7回/2年 7回/1年	年4回/学年	7回/3年 11回/2年 4回/1年	3年：大阪の在日外国人問題 2年：戦争と人権 1年：命について考える	B	【アンケートによる生徒の評価】 様々な取り組みを通じて、深く自国や自分自身を見つめ直すことができた	3年97% 2年99% 1年96%	90%	3年98% 2年92% 1年84%	平均91%、目標を達成	B	継続	AA	
		⑤課題発見力・紛争解決力	継続	生徒各種委員会の定例開催と討議内容の	開催回数	25回	20回	25回	生徒議会12回 学校祭関係委員会13回	B	【アンケートによる生徒の評価】 「文化祭」「体育祭」等の学校行事は充実した内容で実施され、工夫されている	90%	90%	91%	目標達成	B	継続		
		⑥健康・体力をはぐくむ	継続	リーダー研修Ⅲ（クラブサポート事業）の実施	実施回数	12回	10回	12回	のべ903名	B	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を、今後のクラブ活動において有効活用できる	90%	90%	90%	目標達成	B	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす <small>小項目（はぐくみたいか） ・規範意識 ・高い志 ・その他</small>	⑦高い志・規範意識をはぐくむ	継続	リーダー研修Ⅰ・Ⅱ（リーダーの資質と規範意識の獲得）の実施	実施回数	I:15回 II:9回	I:10回 II:6回	I:11回 II:9回	I:のべ794名 II:のべ349名	B	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を、今後の学校生活において有効活用できる	I:92% II:90%	90%	I:92% II:90%	目標達成	B	継続	A	
		⑧高い志・共感性をはぐくむ	継続	ボランティア活動の推進	地域等の活動への参加回数	13回	10回	15回	地域清掃、障がい者施設訪問、世界の飢餓の子供を支援する活動、防災活動補助ボランティア等	B	生徒ののべ参加人数	790名	780名	790名	地域清掃活動570名、地域行事補助等130名（祭り等）、世界飢餓子ども支援40名、防災ボランティア50名	B	継続		
		⑨学びの意味と自らの将来について深く考える	再編	卒業生講座・学問発見講座	実施講座数・実施回数	計23講座/年2回	15講座/年2回 (15講座)	24講座/年2回	学問発見講座14講座 卒業生講座10講座	B	【アンケートによる生徒の評価】 「卒業生講座・学問発見講座」は、自分にとって満足できる内容であった	94%	90%	94%	学問発見講座の満足度（94%） 卒業生講座の満足度（94%）	B	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす <small>小項目（はぐくみたいか） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他</small>	⑩最先端の学びの研究	充実	大学等と連携した「最先端の学び」を知る取り組み	実施教科数	2教科	2教科	4教科	GLHS教員研修受講（国語・数学・物理・英語）	B	【授業アンケートによる生徒の評価】 この先生の授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まった	82%	85%	83%	目標に近い値を達成	B	継続	A	
		⑪授業力向上	継続	パティシステムを用いた互見授業の実施	教員1人あたり年2回以上の実施	2.7回/人	2.0回/人	2.8回/人	目標を達成	B	【授業アンケートによる生徒の評価】 信頼できる先生なので来年もこの先生の授業を受けたい（後輩に受けさせた）	86%	85%	88%	目標を達成	B	継続		
		⑫授業力向上	充実	研究授業の実施	実施回数	9回	9回	9回	全教科で実施済み	B	研究授業の教員のべ参加人数	92名	60名	90名	目標を達成	A	継続		
V. 総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査										学力調査の結果	1年⇒2年：-0.99（B）、2年⇒3年：-0.22（A）							AA
	⑭大学入試センター試験への参加										大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合	84.5%	85%	82.3%	目標に近い値を達成	B	継続		
	⑮大学入試センター試験の結果										大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点率	75.6%	74%	74.1%	目標を達成	B	継続		
VI. 課題研究活動	⑯課題研究活動										多様なテーマを扱う生徒の課題研究	14講座	14講座	24講座	2年生全学年で実施（普通科を含む）	A	継続	B	
	⑰コンクール・コンテスト等の成果										全国青少年読書感想文コンクール・全英連 全国 essay contest等の入賞者数	8名	2名	9名	全国高等学校英作文コンテスト入選2名 大阪府読書感想文コンクール優秀1名 大阪・京都数学コンテスト奨励賞1名 GLHS合同発表会大阪大学賞5名	A	継続		
VII. 英語運用能力	⑱TOEFLiBT（チャレンジを含む）										TOEFL iBT コア・リト・ブ ラクティブ・リスニング ①80点以上の人数 ②60点～79点の人数	①5名 ②16名	①4名 ②20名	①4名 ②10名	①は目標を達成 ②は目標に達せず	B	継続	AA	
	⑲TOEFLiBT（チャレンジを含む）以外の英語外部検定試験										TOEFLiBTスコア（チャレンジを含む）以外の英語外部検定試験				目標には達していないが、60点以上の生徒が14名いることは高く評価できる。今後もさらなる指導の充実に取り組んでほしい。				
VIII. 進学実績	⑳スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）への進学										スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学者数（1浪含む）	94名	80名	92名	目標を達成	B	継続	B	
	㉑進学実績										東大、京大、阪大、神大の合格者数	120名	120名	103名	目標に近い値を達成	B	継続		
	㉒国公立大学への進学										国公立大学現役進学者数	126名	-	119名					
	㉓海外大学への進学										海外大学進学者数（1浪含む）	0名	-	0名					

総合評価

茨木高校では、生徒が運営する宿泊野外行事（海外修学旅行）や夜間登山などの学校行事で自主自律の精神を、卒業生講座や学問発見講座では本物に触れ、先輩の背中を追いかけることで高い志を、また、部活動・学校行事を通じたリーダー養成プログラムでリーダーとなる資質を育てている。このように、「高い志を持ち、それを持続させる力をつけること」「『二兎を追う』たくましさ身に付けること」「自主自律の精神を養うこと」を目標として、高校生活の中に様々な活動を散りばめている点は素晴らしい。また、早くからパティシステムなどを取り入れ、組織的な授業改善に取り組み、成果をあげていることは高く評価できる。今後もこうした取組を継続・発展させ、豊かな感性と幅広い教養を身に付けた、社会に貢献する志を持つグローバルリーダーの育成に努めてほしい。

A

平成29年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート 府立大手前高等学校

自己評価の基準	A…計画以上 B…おおむね計画通り C…計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA …きわめて高い成果をあげている AA …高い成果をあげている A …成果をあげている B …取り組んでいるが工夫改善の余地がある C …取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------	----------------	--

資料2-1

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	①言語活用・ICT活用	充実	校内成果発表会の実施	校内成果発表会の発表人数	719人	720人	845人	(文理学科1年まで発表160人) 文理学科2年のぞみ発表160人 文理学科5発表160人中間発表160人 SSH全国1人 サイエンス4人 情報の科学普通科200名	A	①プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生の割合 ②外部指導助言者等による肯定的評価割合	①95.0% ②81.8%	①100% ②指導助言者の好評価82%	①96% ②91%	①SSH対象者アンケートをもとに発表人数が増え、アンケート結果でも高い評価を得ている。また、勉強会や補習・講習への参加者数も増えており、これらの取組については評価に値する。 ②サイエンス探究最終発表会助言者アンケートによる(11名中10名が好評価)	A	継続	B	
		②基礎学力の向上	継続	勉強会・補習・講習の実施	参加者数	のべ1077人	のべ1000人	1197人	勉強会1年 119人3月実施 勉強会2年 97人3月実施 補習・講習1年 354人 学活補習・講習2年 267人 学活補習・講習3年 360人 講習	A	5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	27.3%	28%	26.0%	本校生徒の自己採点回収分5教科7科目受験者数312名中81名	B	充実		
		③英語運用能力	充実	①イングリッシュキャンプ・TOEFL講座の実施 ②ネイティブによる4技能向上に向けた授業実践	参加者数	①110人 ②720人	①160人 ②720人	①60人 ②720人	①Focus TOEFL 60名 ②3名のネイティブスピーカーによる実践	A	①英語運用能力に自信が持てたと回答した参加生の割合 ②センター試験英語平均点	①99% ②全国平均に対して133%	①100 ②全国平均に対して134%	①82% ②全国平均に対して124%	①オンラインテストのスコアが伸びた生徒の比率 両方受けた56人中46人 ②センター自己採点集計英語筆記で比較	B	充実		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはくむ	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	継続	・海外からの学校訪問の受入 ・海外スタディツアーの実施	・学校訪問受入者数 ・海外スタディツアー参加者数	受入34 派遣93 交流98	200人	受入21 派遣112 交流59	英国派遣 10名 ケンブリッジ研修 9名 オーストラリア研修 30名 シンガポール研修 63名 米国高校生との受入・交流	B	異文化について理解を深めることができたという回答した参加生の割合	95%	100%	95%	生徒アンケートによる	A	継続	A	
		⑤共感性・協調性	継続	①野外生活体験学習の実施 ②コーラス大会の実施	参加者数	①360人 ②1080人	①360人 ②1080人	①360人 ②1080人	1年生の校外教授 コーラス大会	A	この学校で良かったと回答した生徒の割合	98%	96.0%	97%	卒業時のアンケートによる	A	継続		
		⑥健康・体力をはくむ	継続	クラブ活動や学校行事のための自治会活動の活性化	①新入生オリエンテーションや部活発表会の実施 ②自治会発行冊子の発行	①年間2回 ②年間一部	①年間2回 ②年間一部	①年間2回 ②年間一部	①新入生オリエンテーションのクラブ紹介・文科系クラブ発表会・文化祭 ②自治会冊子『スプリング』年1回スプリング・『自治会伝心版』3回発行	A	クラブ加入率	91.8%	92.0%	93.6%	部活動基本調査のデータによる	A	継続		
	III. 高い志をはくむ、進路実現をめざす	⑦社会貢献意識を高める	充実	ボランティア活動の推進	ボランティア活動に参加する人数	537人	540人	570	大阪マラソンボランティア78人 子ども水泳教室33人 ECO緑白17人・シオカーニバル9人・リレーフォーア25人・清掃ボランティア114人・大阪城英語案内16人他	A	GLHS卒業生アンケート「学びの成果を将来社会の役に立てたい」とする項目の肯定的意見の割合	75.0%	76.0%	73%	GLHS卒業生アンケートによる	B	継続	AA	
		⑧規範意識	継続	自己規律意識の涵養	全教員の輪番による登校指導	毎日	毎日	毎日	生徒登校日はすべて実施	A	1年あたりの総遅刻者数	2411人	2500人	3490人	本校生徒指導部集計による(12月末) 昨年同時期1742	B	再編		
		⑨高い志をはくむ	充実	各界リーダーによる講演会の実施	OB等による講演会の回数	104回	100回	117回	京大研修9回(理系5文系2卒業生2) 阪大研修3回・東京研修14回 集中セミナー75回 進路講演14回(卒業生/外部) 京大講演・のぞみ講演	A	目標を高くもって頑張ると回答した参加生の割合	97.0%	97.0%	97%	行事実施後の生徒アンケートによる	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩進路指導力向上	継続	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	①研修回数 ②研修参加者数	①31回	①30回 ②70人	①19回 ②80人 (のべ)	進路研修1回 模試分析会(校内)7回 予備校主催の大学入試研究会5回 センターリサーチの分析会2回 予備校での浪人生報告・激励会4回	A	本校の進路指導は信頼できると回答した保護者の割合	90.2%	90.0%	92%	学校教育自己診断の進路指導の項目であてはまる・ややあてはまると答えた割合	A	継続	AA	
⑪授業指導力向上		充実	研究授業、授業参観等の実施(パディシステムの導入)	①研究授業の回数 ②公開授業の回数	①70回 ②135回	①67回 ②134回	①275回 ②216回	授業公開(午後2限×4日間)216回 校長による授業観察70回 指導教諭による授業観察180回 パディによる授業見学25回	A	生徒アンケート「次年度も授業を受けたい、または後輩に進めたい」と回答した生徒の割合	84.0%	84.0%	86.70%	授業アンケートによる(後期)	A	継続			
⑫教材開発		継続	①オリジナル教材の開発 ②シラハスの充実	①教材開発 ②改定冊数	①7科目 ②3学年分	①7科目 ②3学年分	①8科目 ②3学年分	①英数国・地理・物化生地 ②新たな評価の観点盛り込み改定	A	先生は教科書外の、役に立つプリントなどをうまく使っていると回答した生徒の割合	83.9%	84.0%	85.70%	授業アンケートによる(後期)	A	継続			
V. 総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	1年⇒2年:-0.78(B)、2年⇒3年:-0.47(A) *詳細は評価審議会資料3に明記						学力調査の結果において、特に1年から2年でマイナスが大きいことについて、分析のうえ、改善策を検討してもらいたい。	AA	
	⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	86.0%	88%	86.0%	卒業予定者360名に対する比率	B	継続			
	⑮大学入試センター試験の結果									5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	27.0%	27.5%	26%	本校自己採点結果による	B	充実			
VI. 課題研究活動	⑯課題研究活動									全国規模での大会の発表者数	11人	12人	24人	連数教5人 関学9人/17人/6人 阪大SEEDS1人 京大ELCAS1人 SSH全国大会発表1人 マスフェスタ発表者10人	A	継続	AA		
	⑰コンクール・コンテスト等の成果									全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	①府レベル6名 ②全国レベル6名	①府レベル6名 ②全国レベル7名	①府レベル14名 ②全国レベル15名	大阪サイエンスイノベーション3名 大阪学生科学賞入賞1組5名 科学の甲子園7位7名 パンゴ甲子園5位2名 グローバルサイエンスキャンプ発表者2位 生物オリンピック入賞2名 日本数学コンクール入賞1名 他	A	継続			
VII. 英語運用能力	⑱TOEFL iBT (チャレンジを含む)									TOEFL iBTスコア(チャレンジを含む) ①1年次 60点以上 ②2年次 60点以上	①4人 ②今年度より	①4人 ②16人	①5人 ②10人	TOEFLチャレンジ、iBT受験による	B	充実	AA		
	⑲TOEFL iBT (チャレンジを含む)以外の英語外部検定試験									センター試験英語平均点	全国平均に対して133%	全国平均に対して134%	全国平均に対して124%	センター自己採点集計による	B	充実			
VIII. 進学実績	⑳スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学									スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学者数(1浪含む)	74人	80人	89人	本校進路指導部集計による	A	継続	AA		
	㉑進学実績									進路希望達成率(第一志望への合格率)	34.4%	38.0%	34.6%	本校進路指導部集計による	A	継続			
	㉒国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	161人	140人	145人	本校進路指導部集計による	A	継続			
	㉓海外大学への進学									海外大学進学者数(1浪含む)	0人	2人	0人	本校進路指導部集計による	B	継続			

総合評価	大手前高校は高等女学校を前身とするスマートなイメージの学校である。GLHSとしての使命を踏まえつつ、めざすべき学校像を明確に示し、心と体を鍛える充実した部活動や伝統ある学校行事をはじめ、思考力・判断力・表現力等を育むSSHを核とした課題研究の取組、英語4技能の向上をめざしたTOEFLを取り入れた英語教育、異文化理解と交流を進めるイギリス・オーストラリア・シンガポールでの海外研修、高い志を育む京都大学や大阪大学などとの高大接続などに取り組んでいる。また、今年度新たにパディシステムを導入し、授業改善と組織力強化に取り組んでおり、今後の成果に期待するところである。今後も、これらの取組をさらに充実させながら、これからの国際社会に貢献するグローバル人材の育成に努めてもらいたい。	AA
------	--	----

自己評価の基準
A...計画以上
B...おおむね計画通り
C...計画以下

評価審議会
評価の基準
AAA...きわめて高い成果をあげている
AA...高い成果をあげている
A...成果をあげている
B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C...取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組目標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価 (コメント, 評価)

総合評価
生徒による学校の取組に対する肯定的評価や学校生活に対する満足度がとても高い、それが四條畷高校の大きな魅力である。そのことは、生徒たちが落ち着いた恵まれた環境で学業に励んでいる姿や、熱心に学校行事・部活動に取り組んでいる姿を見れば理解できる。また、台湾修学旅行やオーストラリア・ベトナムなどの海外研修における国際交流、SSHを核とした課題研究の取組、卒業生による講演、大学への研究室訪問などにより、主体的・協動的に取り組む力や、質実剛健な人間力、豊かな感性などを育てている。これまでの「質実剛健」「文武両道」の伝統を誇りとしながら、「守る伝統から創る伝統へ」というキャッチフレーズのもと、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成をめざして、取組を進めてもらいたい。

自己評価の基準
A...計画以上
B...おおむね計画通り
C...計画以下
評価審議会
評価の基準
AAA...きわめて高い成果をあげている
AA...高い成果をあげている
A...成果をあげている
B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C...取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価コメント, 評価

Summary table with columns: 総合評価, 高津高校では100周年を迎え、「もっと自由にもっと創造」を合言葉に、新たなことに取り組んでいる。例えば、英語教育では平成28年度からアドバンスイングリッシュコースを設置し、英検の成績において圧倒的な伸びを示している。また、教員の指導力向上をめざした取組では、「高津授業メソッド」の確立をめざし授業のノウハウや各教科のグッドプラクティスを収集したり、教科・分掌・学年ごとに到達目標を設定し、すべての教員が同じ目標に向かい授業改善や教育活動の充実に取り組むなど、その成果が現れつつある。創立100周年事業として食堂を改装したラーニングcommons (高津クリエイティブラボ) も有効に活用し、今後も、高津ならではの「自由と創造」の校風に基づく工夫・充実した教育活動により、国際社会で活躍するグローバルリーダーの育成に努めてもらいたい。

自己評価の基準
A...計画以上
B...おおむね計画通り
C...計画以下
評価審議会
評価の基準
AAA...きわめて高い成果をあげている
AA...高い成果をあげている
A...成果をあげている
B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C...取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価コメント, 評価. Rows include: 学校独自の取組 (I-III), 知識基盤社会をリードする人材の育成 (IV), 共通の取組 (V-VII), 進学実績 (VIII).

Summary row for '総合評価' (Overall Evaluation) with a large text block describing the school's achievements and future goals, and a final evaluation grade of 'AA'.

自己評価の基準
A・・・計画以上
B・・・おおむね計画通り
C・・・計画以下
評価の基準
AAA・・・きわめて高い成果をあげている
AA・・・高い成果をあげている
A・・・成果をあげている
B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C・・・取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価 (コメント, 評価)

総合評価
生野高校では五綱領にある「質実・剛健・自重・自治・至誠」といった校風を大切にされた学校づくりを行ってきた。また、GLHSの指定を受け、オーストラリアへのスタディツアーやSSH指定によるアメリカサイエンスツアー、大学と連携した取組などを行い、グローバル人材に求められる主体性や協調性、語学力やコミュニケーション能力、異文化理解などを育てている。部活動がとても盛んで、体育系、文化系の両方において全国的に活躍する部が多くある中、生徒に学習と部活動の両立を意識させ自学習時間を増やす取組や、遅刻・欠席を減らす取組を進めてきた。その中で、今年度、1、2年生の自学習時間が大きく増加したことは大きな成果であり、大学進学実績などの向上にも期待が膨らむところである。今後も、国際的に活躍できるグローバル人材の育成をめざし、取組の充実を図ってほしい。

自己評価の基準
A・・・計画以上
B・・・おおむね計画通り
C・・・計画以下
評価審議会
評価の基準
AAA・・・とても高い成果をあげている
AA・・・高い成果をあげている
A・・・成果をあげている
B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C・・・取組の成果があまりある

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価コメント, 評価

Summary table with columns: 総合評価, 三国丘高校では、「文武両道」「自主自立」「切磋琢磨」の三丘スピリットを伝統として受け継ぎながら、各界で活躍する卒業生による「三丘セミナー」や海外スタディツアー、TOEFLを取り入れた英語4技能統合型授業や英語の特別レッスンの実施など、高い志を育み、学力向上を図る多彩な取組を行っている。また、SGHの取組では「高校生ビジネスグラプリ」で全国1位をとったり、SGHフォーラムで全国4位となるなど、研究内容や発表方法についてはとてもレベルが高く、優れた実践を行っている。SSHにおいても、物理オリンピックや生物オリンピックで優秀な成績を残している。さらに、GLHSの指定を受けて以降、教員の授業力向上をめざし、学校として組織的にさまざまな取組を進めており、成果をあげている。今後も、国際的に活躍するグローバルリーダーの育成をめざし、これまで行ってきた取組を継続し発展させてもらいたい。
総合評価: AA

自己評価の基準
A・・・計画以上
B・・・おおむね計画通り
C・・・計画以下

評価審議会
評価の基準
AAA・・・きわめて高い成果をあげている
AA・・・高い成果をあげている
A・・・高い成果をあげている
B・・・成果をあげている
C・・・数値の復算が必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価 (コメント, 評価)

総合評価

岸和田高校では、校長先生のリーダーシップのもと、学習内容や学習時間などを記録できる学校独自の「岸高手帳」、課題研究の成果として取りまとめ製本する「課題研究論文集」など、次々に新たな取組を導入している。UCパークレー校での研修、台湾の姉妹校高校生やドイツの高校生との英語による相互交流などもその一つであり、現在は、ICT機器の活用とアクティブラーニングを取り入れた授業の実践にも熱心に取り組んでいる。これらの取組について、中学生の保護者からは「斬新」であると評価されたとのことである。もちろん、以前から行ってきた土日の自習室開放や土曜講習など、面倒見の良い指導も継続している。今後も、新たな取組を取り入れながら、リーダーシップや英語運用能力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などを身に付け、将来、グローバルにたくましく行動できる人材の育成に努めていきたい。

AA